

# 白ネギにおけるハイフミンハイブリッドG施用試験結果(平成23年(夏))

1. 試験目的;ハイフミンハイブリッドGの施用による白ネギの生育促進、健全生育効果を確認する。
2. 試験場所;茨城県坂東市岩井(旧岩井市)
3. 試験内容;連作障害、その他病害発症履歴の無い圃場において、生育状況の確認を行った。

## (1)設置状況

【品種:春扇，定植日:1月中旬，収穫開始:6月4日，調査日:6月3日】

### 【試験区画】

- ①定植時溝施用区(1月中旬) 5a 施用量 ハイフミンハイブリッドG 150kg/10a
- ②土寄せ時施用区(4月10日) 5a 施用量 ハイフミンハイブリッドG 150kg/10a
- ③無施用区 5a

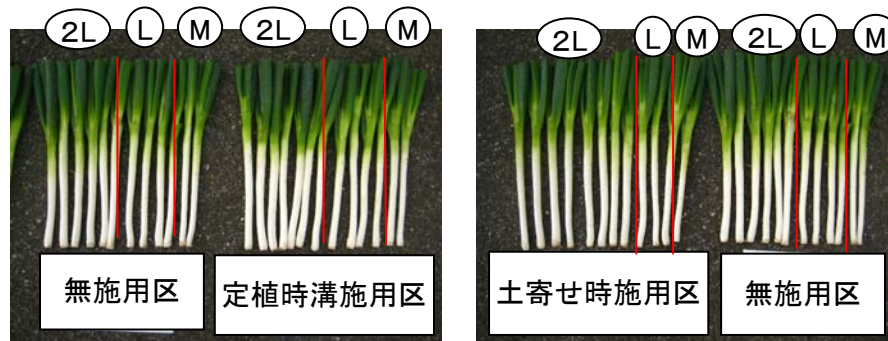
## (2)試験結果

### A.生育状況



①定植時溝施用区と③無施用区では、下葉の枯れ上がりが若干ありましたが、②土寄せ時施用区では、下葉の枯れ上がりが少なく、生育良好で、太いものが多かった。

### B.収穫物の比較



### C.調査株等級区分

	2L	L	M	S
①定植時溝施用区	53%	31%	16%	0%
②土寄せ時施用区	67%	25%	8%	0%
③無施用区	50%	33%	17%	0%

## (3)まとめ

調査結果より、等級区分の2L割合を見ると、ハイフミンハイブリッドGの土寄せ時施用区が一番多く、次に定植時溝施用区となり、施用した区は無施用区より太いものが多かった。

施用による生育促進・収量増加は、定植時溝施用より土寄せ時施用の方が良好であった。これは、土寄せを行った部位にハイフミンハイブリッドGを混和することにより、有用微生物による土壌微生物相の改善と、天然腐植による根づくりが効果的に発現されたものと思われた。

以上